

脳神経内科 アミロイドPET検査・レカネマブ治療について

脳神経内科医長 渡邊千種

2023年12月、アルツハイマー病の新規治療薬レカネマブ（レケンビ）が保険適用となりました。これに伴い脳アミロイドPET検査も保険適用になりました。当院でもアルツハイマー病の方へ遅滞なく新しい検査・治療を提供できるよう進めていく予定です。

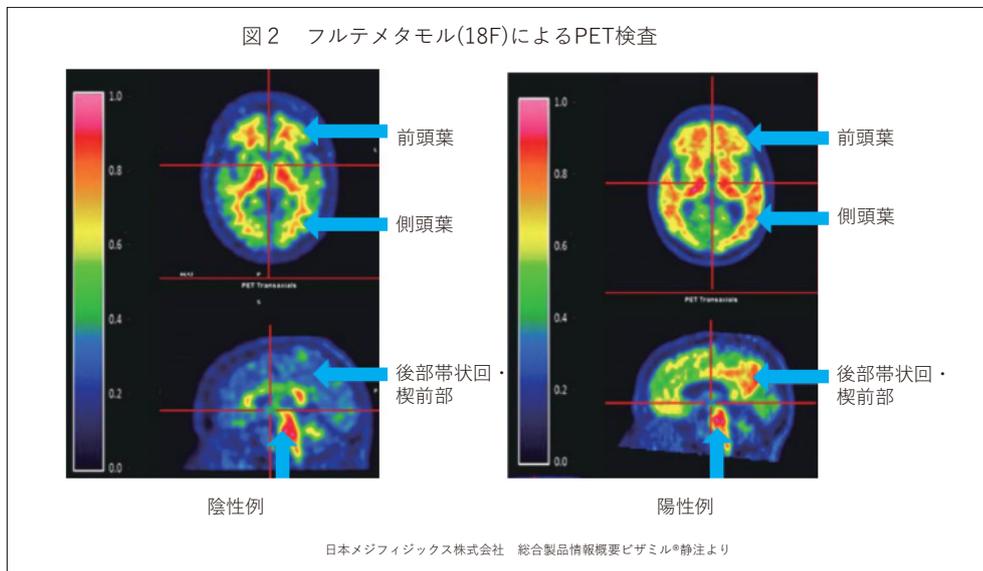
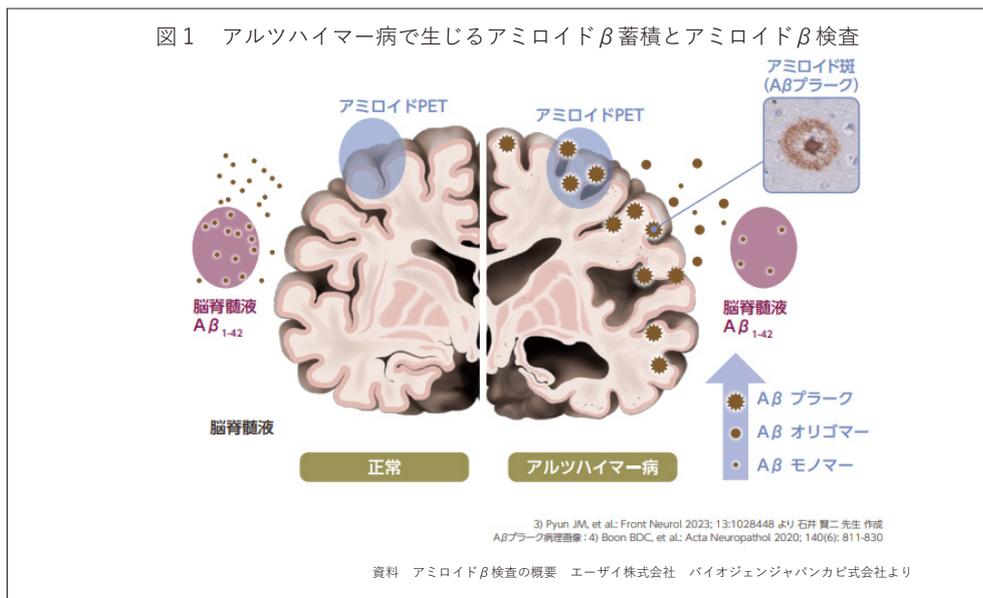
●アミロイドPET検査

アルツハイマー病では脳内にアミロイド β というたんぱく質の異常が蓄積していることがわかっています。(図1)

アミロイドPET検査は脳内のアミロイド β のかたまり（アミロイド β プラーク）を画像化する検査です。脳内のアミロイド β プラークの蓄積の度合いや分布をみることができます。(図2)

検査では、まず検査薬を注射し約60分待機していただきます。待機の間は読書やゲームなどされて問題ありません。撮影は20～30分で終了です。結果は陽性、陰性と判断されます。

昨年承認された抗アミロイド β 抗体薬であるレカネマブによる治療は、臨床症状、検査結果に加え、アミロイドPET検査（あるいは脳脊髄液検査）で陽性が確認された場合に投与が可能となります。



●レカネマブ（レケンビ）による治療

アルツハイマー病は、アミロイドβというたんぱく質の異常が大きな原因と考えられています。アミロイドβは脳内にたまり、タウというたんぱく質の異常を促進し、次第に神経細胞の働きは低下し、神経細胞の数が減り、脳の萎縮が進むと考えられています。

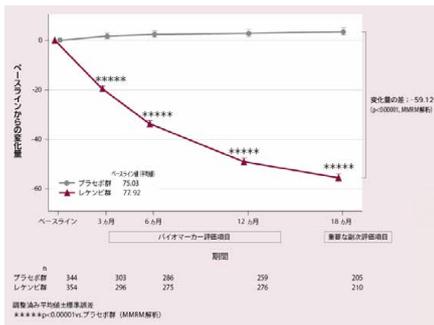
アルツハイマー病の治療薬は、症状を緩和する薬（症状改善薬）として、ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミン、メマンチンが使用されてきました。一方、病気の原因を改善し進行を抑える薬（疾患修飾薬）は、なかなか一般診療で使えるまでは至りませんでした。

レカネマブ（レケンビ）は、2023年9月に承認された国内で初めての疾患修飾薬です。主にアミロイドβがプラークになる前段階のプロトフィブリルに作用し、アミロイドβを取り除くことでアルツハイマー病の進行を遅らせて認知機能の低下を緩やかにすることが期待されています。国際共同第3相プラセボ対照比較試験では18ヵ月間投与し臨床認知症尺度で27%の進行抑制が示されました。（図3、4、5）

レカネマブ（レケンビ）の治療の対象となるのは、アルツハイマー病による軽度認知障害（MCI）及びアルツハイマー病による軽度の認知症の方です。治療前にアミロイドPET検査あるいは脳脊髄液検査でアミロイドβ陽性が確認されることが必要となります。

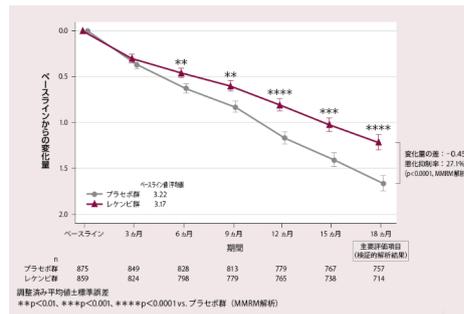
アルツハイマー型認知症は、適切なタイミングで治療を選択することが可能となり、軽度認知障害（MCI）の方を早期に適切に診断することが求められます。

図3 アミロイドPETセンチロイドスケールのベースラインからの変化量



レケンビ群ではプラセボ群と比較して脳内アミロイドβ蓄積量の有意な減少が認められた

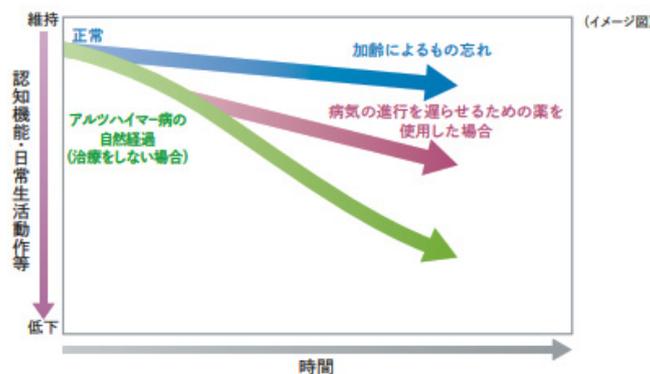
図4 CDR-SBのベースラインからの変化量



レケンビ群ではプラセボ群と比較して有意な悪化抑制が示された。

レケンビ®電子添文より https://medical.eisai.jp/products/leq_info/

図5 薬物療法を行ったときの認知機能の変化



Hefli F. DRUG DISCOVERY for NERVOUS SYSTEM DISEASES. WILEY 2005, p.178より岩田淳先生(東京都健康長寿医療センター 副院長・脳神経内科部長)が作成

資料 レケンビ®の治療を始める方とご家族へ エーザイ株式会社バイオジェンジャパン株式会社より